

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第4回議事メモ

分科会	第2分科会
コーディネーター	高澤 良英
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	防災・安全推進室 小久保
日時	2021年7月25日(日) 14時から16時30分
場所	産業文化会館 3階 会議室1・2
その他	参加者数 10名 欠席者数 14名

総括

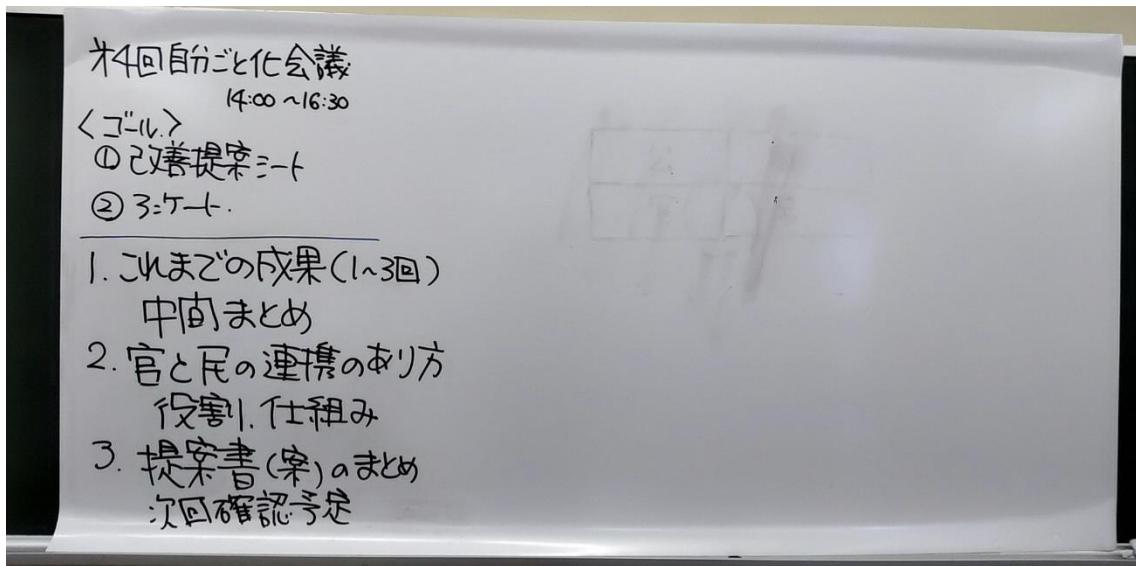
コーディネーター総括

- 市外から転入してきた方、夫婦共働きで昼間はほとんどしないにいない方、生まれも育ちも長岡京市の方、様々な方々が自治会の意義や必要性について議論した。自治会の目的は、安心して暮らせる地域を目指すことであり、特に、災害発生時や、高齢者の居場所などに自治会は重要と話し合った。
- 災害発生時における自治会の役割として、主に要配慮者の支援と避難所の運営がある。要配慮者支援制度も、誰一人取り残したくないということが原点であるが、誰が要配慮者なのかわからぬ状況にある。まずは誰が要配慮者か把握し、普段からコミュニケーションをとっておく必要がある。そのうえで、民間の介護サービスなどとの連携の可能性も検討する。

主な論点

- 論点① 自治会の意義・必要性について
 論点② 避難所運営について
 論点③ 要配慮者支援制度について
 論点④ 市民への情報提供について

ホワイドボードの写真



協議の流れ

コ) 今回の提案シートを提案書としてまとめ、第5回につなげる。今後は、「発散」から「論点をまとめる」段階へ。

普段できないことは実際の災害時にできない。前回出た良い意見。

① 自治会の意義・必要性について

コ) 中間とりまとめの課題①について。行政との連携で気になることや感想でも結構。

委) 最近引っ越しをして、新たにコミュニティを作らなければならない状況。繋がりをつくるきっかけは挨拶だと思う。DIY をやっているが、うるさいので周りに断ってからからやっている。やかましいけど元気の良いひと、という印象作りをしている。個人のキャラクターで親しくなれる人もいるし、そうでない人の手助けを自治会ができれば。

委) 防災会を作った当時、なかなか実践の段階に入れなかった。実践しながらでないと、何が足りていないかわからない。自分が退いたあとはだれもやらない。机上での話は人が集まる。いざやろうという段階で、誰が音頭となるのかで停滞する。率先してやる人間がないと衰退する。一番大切なことができない。

コ) なぜ次の世代につながっていないのか？

委) やはりリーダー。率先してやっていかないと。そこが欠如すると衰えてくる。

コ) リーダーはたしかに大事。しかし自治会などでは、役員ができるから抜けるという人が多い。

委) 自治会が本当にいるのか。若い人は興味ない人が多いと思う。自治会など、箱を多く作って動かそうとするから無理がある。中間とりまとめに自治会のことが記載されているが、行政以前に地域だけで解決できる話もある。自治会を作っても、やらされているだけの人が多い。なんでも自治会を通してやるというのは無理がある。

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

- コ) 自治会の必要性とは。若い人の感覚とずれてきているのかも。
- 委) 家族が自治会に入っているかはわからない。市外から来たので地域に愛着があるわけではない。核家族化や転勤等があり、マンションも増えている。地域に定着するというよりも、通過点としてとらえている。地域への愛着が希薄。
- PT) 生まれも育ちも長岡京市。親が加入しており、結婚後も同じように加入している。入らないという選択肢がない環境だった。加入するメリットが分からぬといふ点はよくわかる。お子さんが大きくなられてから脱会するなど、周囲を見ているとメリットがないので入らない人はいる。
- 委) 京都市内で生まれ育ち、親が自治会長をしていた。自治会の入って当たり前といふ地域だった。結婚して現在住んでいるところはマンションなので自治会には入っていない。夫婦二人共働きで、日中ほとんど家にいないので、自治会がなくとも困っていない。子供ができれば変わるかも。状況によって、必要なコミュニティは変わってくる。
- 委) 自治会が要らないとは思わないが、必要性がなければ時代とともに淘汰されていくと思う。私も地元の人間。困ったことや情報を得たいときは自治会より市役所に行く。市役所は正確な情報が取れる利便性がある。近所に聞きに行くことがない。自治会の運営を強化するよりも、行政サービスの充実にお金を使った方がいいと思う。困ったことがあっても、個人で情報が簡単に取得できる時代なので、自治会の立場が弱体化している。今までどおりではいけないと思う。
- 委) 台風で停電になったとき、自治会で高齢者に水を配った。自治会に入っていない人は名前も分からぬので配りようがない。自治会があることで助かった。
- コ) 普段は必要性を感じられないが、災害時には助かる。行政ではできないことを市民が担う必要が出てくる。民生委員の立場はどうか？
- 委) 地元の人間で自治会にはずっと入っているが、40数年前とは変わったと感じる。昔は長岡天満宮のボートの収益や、財産区の話などがあったが、法律が変わり、自治会で自由にお金を使えなくなつたらしい。自治会館を建てるくらいで、お金がそのまま残っている。一方で新しく設立された自治会は財産区財産を持っていない。自治会がないという理由でそこに引っ越してくる人もいる。横のつながりを持ちたくない、顔を見せたくない人もいる。災害に関しては、長岡京市は水害と土砂災害の危険がある地域以外は、あまり危険性がない。有事に消防団がどのような動きをするのかも分からぬ。自治会のやっていることを周知する必要性がある。
- 市) 消防団は市内で5分団あり、総勢150名。ほかの自治体では定員が集まらないこともあるが、本市は先輩から後輩へ受け継がれて150名をキープしている。長岡京市は消防士の指揮命令で消防団が動く仕組みになっている。消防士だけでは対応できないときに、消防団を招集する。
- コ) 消防団の方は日中仕事をされていると地元にいない場合もある。
- 委) 高齢者にとっての居場所が自治会や地域の中にあれば理想だと思う。実際に各自治会長は何をされているのか知りたい。また、行政は地域や自治会に何を求めているのか知り

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

たい。自治会という形でなくても対応できる仕組みがあれば。

- 委) 自治会長をしている。何かしようとしても、コロナ等で集会、催し物ができない。できないからこそ自治会活動について考える機会に。自治会の目的は安心して暮らせる地域づくりだと思っている。行事をやることでどんな方がどこに住んでいるのかを確認する。住民が直接市役所に意見を言っても、市としても動きにくい。自治会でまとめて意見を上げると、市も動きやすい。滝ノ町は住民の3分の2程度が自治会員。だんだん少なくなっている。仕事をしながら自治会活動ができるように配慮工夫している。
- コ) 安心して生活するために顔の見える関係を作っている。また働きながら活動できるというのは大事なことだと思う。
- 委) ゴミ捨てのときに隣に住んでいる方から、おばあさんを最近見ないけど元気にされていますか?と声をかけられた。自治会に入ってないけれども、周りをよく気にされていると思った。
- コ) 自治会について行政の考えはどうか?
- 市) 市内のほとんどの地域で自治会が組織されている。加入されていない方もおられるが、自治会長は地域全体を見て動いていただいている。市では目が届かないところを見ていただいている。有事の際の連絡や、行政から地域への相談もしやすい。
- 委) 地域に組織がありすぎても逆に困る。
- コ) 改善提案シートで地域コミュニティ協議会についてのご意見も出ていた。無作為で参加されている方は、地域コミュニティ協議会について知らない人が多いと思う。
- 委) 地域コミュニティ協議会は、各地域の自治会長などに入っていただきて、地域のために何ができるかを協議している。自治会員の減少をどう抑えるか。夏に花火を行い、子供たちの思い出作りをして、地域に帰ってくれるように。集まってくれる人が増えている。いろんな意味でのコミュニケーションを広げる活動をしている。夏と冬にはパトロールをして、街灯の状況も確認する。
- コ) 地域の最小単位は自治会。地域コミュニティ協議会は小学校区単位。市民にとってのコミュニティの必要性をどういう風に説明するとよいか。
- 委) 街灯については、陳情書や要望書などで解決できるのでは。町内会で十分だと思う。興味がない人は絶対入らない。なくなるのは時代の流れ。そうなると市役所のきめ細かなサービスが重要。自治会への不信感もあるのではないか。働く時間やライフスタイルも様々。時代と合っていない。
- コ) 行政サービスを充実させると、市民の負担は増える。
- 委) 負担に見合う分の見返りがあれば。自分のことは自分でやることが大事。それでもできないことは市役所。有事の際はご近所付き合いと町内会でカバーできると思う。

～ 休憩 ～

(2) 避難所運営について

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者

- コ) 中間とりまとめの p 4.5について、避難所の運営の状況は？
- 市) 大規模な災害発生時に行政だけで避難所を運営することは困難。地域コミュニティ協議会を中心に防災訓練を毎年開催し、地域住民に避難所運営をしていただけるよう準備している。地域によっては避難所運営のマニュアルを作成されているところも。
- 委) マニュアルのひな形はある？
- 市) ひな形は行政で用意しているが、ほとんど一から作成してもらっている。
- 委) 昔、ファーストミッショントボックスというものを作った。箱をあけると簡単な使命が書かれている。「3人集めて机を並べる。」など。それをやっていくことで防災の本部が形作られていく。箱の場所の周知と説明が一番大変。方法までは考えたが伝えるのに躊躇している。それを用いた訓練はできていない。
- 委) 地域コミュニティ協議会で作られているマニュアルについて、現場で運営してみてプラスアップしていく必要がある。知らない人も多い。周知も課題。
- コ) 全体の底上げをどうしていくかが難しい。行政だけではできないこと。
- 「公」と「私」について、現在は「公」＝「官」だが、江戸時代は「公」の領域を「民」も担っていた。道路の整備など。戦後都市化が進むと、「公」＝「官」、「私」＝「民」に。ただ現代ではそれがうまくいかなくなっている。「公」の守備範囲はどこまでか。独居老人の問題や、孤立、空き家など。「官」だけでは対応できない。避難所も「官」だけでは運営できない。ただこういった話は抽象的になってしまって、我々の班は「防災・防犯」をテーマに議論している。
- 委) 先ほど言いつれていたが、地域コミュニティ協議会で一番大切なことは防災訓練。自治会を中心に学校に人を集めてもらい、参加した方の情報を把握する。訓練では新聞紙でスリッパ作りや、段ボールベッドを組み立てる。地域コミュニティ協議会で防災は非常に大きなテーマ。
- コ) マニュアルはあっても実際に運営できるのか。
- 市) やってみないとわからないところはある。マニュアルを作ることで、必要な動きの再確認にはなる。
- コ) 目指すべき方向性が官と民で共有されているのか。避難所運営のゴールは。
- 市) 市にとっては地域防災計画が目指す姿になる。ただ、市民にとってすぐ理解できる指針になっているかはわからない。
- コ) 行政だけで考へるのはいけないと思う。官と民の対話が重要。連携の前に対話をしないといけない。
- 委) 良いことだけ言うような議論より、いろんな意見を吸い上げて最適化していくのが効率的ではないか。
- コ) 東北大震災で、高齢者施設の近くに企業があったが、普段から連携していなかった。連携していれば避難を手伝ったのではないかという事例があった。大学生や高校生が地域の消防と提携しているところもある。

③ 要配慮者支援制度について

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

- コ) 要配慮者支援制度について、民生委員の方、課題はあるか。
- 委) 誰が誰を助けに行くのかが課題。名簿作成の協力が民生委員の仕事。名簿は自治会も持っている。名簿はあるが、集合住宅の階段などの細かい情報は載っていないので、それが分かるマップを作っている。名簿は同意した人しか載っていない。実際に災害があったときに動けるか。
- 委) 名簿は作成されており、民生委員と自治会長に渡されているが、個人情報の塊。誰が要配慮者なのかを一般の人は知らない。民生委員と自治会長で対応するのは不可能。もう少し情報を出してもいいのではないかと思うが。
- コ) 名簿の共有化のルールは？
- 市) ここまで共有してよい、というような具体的なルールはない。
- コ) 誰が助けに行くかを定めた個別計画は？
- 委) 誰が助けに行くかは決まっていない。
- コ) 名簿を作ったあの、次のステップがないように感じる。
- 市) 今年度から個別計画の作成が市の努力義務となる法改正がなされた。全国的に見ても、全体の名簿は整備しているが、誰が助けに行くのかの個別計画は整備しきれていない状況。長岡市でも個別計画の整備が不十分であるため、進めていかなければいけない。
- 委) 自主防災会で要配慮者の救護班を設けている。14～15人ほど。敬老の集いなどで普段から要配慮者と顔合わせをしている。救護班まで名簿が共有されればよいが。普段から備えておかないと難しい。
- 委) 雨や台風は事前に備えることができ、介護事業者がバスで回るなど、力を借りられるが、地震は地域の人で助け合うしかない。個別計画ができたからよいというわけではない。
- コ) 官と民の役割を明確でないといけない。
- 委) 役割分担がプレッシャーになる。決められた人が助けに行ける保証はあるのか。また避難所自体が被災する可能性もある。
- コ) 防災は最悪を思い描く。
- 委) 当然役割を決めていても、その人が被災したら助けに行けない。自分の身の安全が確保でき、余裕があれば助けに行ってもらう。できなければ仕方ない。
- コ) 要配慮者と救助者は1対1ではない。リストアップされた人からできる人が出動。
- 委) 救助に複数人必要な時に、それらの人が揃わなかつたら？
- 委) 確認できた人が助けを呼んで、助けに行ける人が行くのが基本になると思う。完璧にはできない。
- 委) 民間のチャンネルが抜けていないか。個人情報も目的外に使わなければよい。地域の人だけでなく、民間の介護サービスなど、日ごろお世話になっている民間企業に頼る方が頼りやすい。
- コ) 民間介護事業者が災害時にどこまで対応できるのか。
- 委) やってみないとわからない。
- 委) 車の保険のように、行政や民生委員が自賠責のようなもので、民間事業者が任意保険の

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

ようなイメージ。助けに行くのは誰でもいい。救急車が来られなくても、介護施設のバスは使えるかもしれない。

- 委) 京都市に住んでいる母は足が悪く、近所の人に災害の時は自分のことは置いて避難してほしいと言っている。人に迷惑をかけたくないと思っているのかもしれない。複雑な気持ち。高齢者でも命の大切さは一緒。
- コ) 要配慮者支援制度も、誰一人取り残したくないということが原点だと思う。
- 委) 要配慮者を登録していても、個人情報の関係で、思うように動けない。
- コ) 改善はされている。要配慮者の自治会の加入率は?
- 委) 3分の1は自治会に入っていない。
- コ) 未加入者は助けに行かないのか?
- 委) そこの区別はしていない。市から委託されている事業(敬老やごみ出し、要配慮者支援制度)は市民であれば受ける権利がある。自治会員かどうかで区別はしない。一方自治会の行事は自治会員でないと参加できない決まり。
- 委) 個人情報の問題について、特例や但し書きなどで対応できるのではないか。
- 市) おっしゃるように、災害対策基本法に、名簿の公開については、同意されないものはその限りではないと記載されている。数年前に要配慮者全員に支援制度についての通知を送ったが、登録者が伸びなかつたので、今年度も登録者の分母を増やすために、再度市から通知を送る。

④ 市民への情報提供について

- 委) 前回街灯の話があったが、交差点や側溝、歩道、公園の遊具などいろいろな問題がある。高齢者が外に出やすい環境が重要。コミュニティの形成にもつながる。
- コ) 自治会のメリットや必要性の話が出ていた。今は必要なくても将来年を取る、あるいは事故で障がいを負うなど、一人で生きていくなくなる可能性がある。
- 委) 高性能でないスマートフォンを市が買い上げ、レンタルサービスをしてはどうか。行政のメリットとして、配布物の紙代、印刷代、郵送料のコストカットに繋がる。
- 委) 自治会で回覧板を回すのをやめた。回したら後で見ることができないし、バイインダーに挟む作業も面倒。マンションでLINEグループを作り、そこで発信。市や学校にも理解をいただき、賛同してもらえた。従来の回覧板を希望する人には回している。
- 委) 中間とりまとめに「スマートフォン普及に関する具体的な前例がない」とあるが、葛飾区でやってているはず。
- コ) 回覧板の電子化の取り組みを行政が応援することは大事。面倒くさいことの排除は素晴らしい。変えられることは変えた方がよい。コミュニティの今後のヒントになる。皆さんからいただいた意見を提案書にまとめ、次回ご意見をいただく。行政とのキャッチボールもしていきたい。

次回の分科会に向けた準備

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

次回の分科会の目標

- 次回、提案書としてまとめたものについて、ご意見をいただく。
- 良い提案書作成のためには、行政とのキャッチボールが必要。